

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム楓の郷1階		
所在地	福島県須賀川市西田町9-3		
自己評価作成日	令和4年7月31日	評価結果市町村受理日	令和4年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気づくり、寄り添う姿勢、ご家族様とのより良い環境作りに努めています。災害時の対応と受け入れの相談を福祉避難所として行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員間のコミュニケーションが取れており、ケアについてお互い相談できる風通しの良い職場づくりを行っている。言葉かけについても管理者や職員が気になった時、違う言葉はないか検討し、理念に掲げる尊厳に配慮したケアに努めている。
 2. 職員4名が身体拘束委員会の委員として3か月ごとに委員会を開催している。また、Zoomを使い虐待や身体拘束について職員研修を行い、不適切なケアについて具体的な例を挙げて学んでいる。復命書作成を義務付け職員全員に回覧をして、知識の定着や職員間の情報共有に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら理念を作りあげ、その理念を管理者と職員は、共有し意識づけしていくため日々の中で話し合い、実践につなげている。	法人理念と地域密着型の理念を事業所内に掲示し、朝礼で唱和し、共有に努めている。毎年年度末に理念の見直しについても話し合い理念の継続を確認しあっている。また、理念に沿った年度目標を作り、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事参加は控えている。	町内会に加入し地域の一員として意識しているが、コロナ禍で地域行事の参加は控えている。事業所隣の公園に子ども達が遊びに来た時、窓越しに手を振るなど距離をとった交流にとどめている。運営推進会議の委員になついる区長から情報をもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症の研修を受け、ご家族様や地域の方々の不安や悩みに応じる事が出来る体制を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2か月に1回は(入居状況、職員状況、研修、行事等)資料、ホーム新聞を郵送し報告している。	委員には区長・地域包括・市担当・家族代表を委嘱している。入居者の状況、行事や事故への対応など事業所の運営状況を書面で送り、「意見・要望・助言等の提案書様式」を同封し毎回意見や要望を聞いている。家族からは感謝の声が多く寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と連携を取り、運営状況などを伝え相談をしアドバイスを頂き運営を行っている。	運営推進会議の資料で運営状況を報告し、事業所の状況を理解してもらっている。また、コロナワクチンの接種の際は市と相談し、接種方法のアドバイスや接種に対応できる医師を紹介してもらうなど連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢を持っている。	3か月ごとに身体拘束委員会を開催する他、ビデオを使い研修を実施している。職員はビデオ視聴後内容を復命書にまとめ回覧する等職場全体で定着を図っている。また、チェックリストを使い課題を洗い出し、対応について話し合っている。スピーチロックについても言葉かけの仕方を変えるなど対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍により研修動画を職員全員で観賞、高齢者虐待防止関連の法の理解をし共有化に努め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修動画を観て理解は出来ている。必要とされている利用者、ご家族などに対しては周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除の際には、内容について分かりにくかったり、不安や疑問などがなければ十分な説明を行い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様が来所時に、意見や要望などを話せる時間を持ち、運営推進会議のメンバーや外部の人にも伝えられるよう機会を作っている。	面会や通院時の付き添いの時に家族から要望を聞き対応できるものは対応に努めている。利用者からは日常生活の中で食べたいものなどの要望を把握し、運営に活かしている。家族から具体的な要望が上がることは少なく、お任せになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾け、一人ひとりが働きやすい環境づくりを行っている。	職員と個人面談を行う他、空いている時間には声をかけ要望等を聴いている。職員からは勤務シフトの要望が多く、希望に応えている。誕生日会など行事運営を職員に任せ、アイデアを活かし利用者が楽しめるよう工夫するとともに職員のやる気を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人が向上心を持てる職場環境を整え、代表者は管理者や職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況を把握し職員処遇への反映や向上心を持って働けるような対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修とともに、職員が働きながら技術や知識を身につけていく事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、外部研修参加は出来ていないが、コロナ感染が落ち着いたら、研修に参加して質の向上に努めたい。□		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事があるか、常に目配り・気配り・傾聴などを行い、本人が安心して生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの苦労や経緯について聞き、不安や要望等に耳を傾けながら、今後のサービス提供につなげて行くことで、家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援を見極め、意向を尊重したサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活しているという気持ちを持って、思いやりのある関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、職員と家族が共に本人を支えていけるような関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への手紙は途切れないように支援している。コロナ感染症の為面会等は距離をとりパーティションを使用し支援している。	面会は玄関先で感染症の予防に努めながら実施している。お盆時には県外の兄弟の面会なども外で行うなど状況に応じた対応を行い、馴染みの関係継続に努めている。家族や友人にお手紙を出せるようあて名書きなどを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者が不安なく話をする状況を作り、常に声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても困りごと等があれば、協力や相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや考えなど、主にケース会義で話し合い、把握し共有している。	利用者から食べたいものや行きたいところ等聞いて希望を把握し、お楽しみメニューの実施や本社のバスを利用したドライブなどを行っている。家族からは介護計画を見直す時要望を聞くようになっているが、入居期間が長いと事業所にお任せになってしまう傾向がある。	利用者の趣味や希望を家族から把握し生活の中に取り入れ、楽しみを増やさず工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など、利用者本人や家族から情報を収集し、安心して生活を送ることが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員間での情報交換により、利用者の現在の状況、思いや希望を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の状況や要望に合った支援が出来るよう、ケース会議等で話し合い、サービス計画を作成している。	計画作成担当が家族の希望を聞くとともに職員から利用者一人一人の課題の分析並びに、アセスメント、モニタリング情報を把握し、それを基に原案を作成し、カンファレンスで意見をもらい、介護計画を策定している。計画の見直しは3か月ごとに行い、入院した利用者は退院時に随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状況の変化や気づきについては、日誌やケース記録、申し送り・ノート等で報告を行い、情報の共有を図り実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、その場その時に支援の方法を職員と協力しながら対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの利用者にあった地域資源を把握し、安全で充実した日常を送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時利用されていた、かかりつけの医療を希望される旨を伝え、ご本人様と家族との同意を得て受診しています。	入居時、受診先をかかりつけ医か協力医か選択してもらい、かかりつけ医を受診する時は家族がバイタル状況を預かり受診している。受診後、結果の報告を得ている。協力医は月2回往診し、法人の定期巡回型の看護師が週1回訪問し協力医と連携している。受診結果を家族へ電話で報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の医療連携看護師には状況の変化など伝え相談して適切な医療や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては早期に退院出来るよう、家族や病院関係者と情報の交換や相談出来るよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時から家族様などと話し合いを行い、事業所で出来る事を説明し、地域の関係者などと協力して支援していきます。	入居時、看取り指針及び医療連携体制を説明し同意を得る他、事前確認書で意向確認している。終末期に再度意向確認をしている。コロナ禍で面会自粛中だが、家族が看取れるよう感染対策を行い配慮している。また、看取り研修を重ね、対応について共有と理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で急変時や事故発生時に備えてAEDの使用、心肺蘇生の訓練を定期的に行い実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで総合防災訓練を行い、他毎月ホーム内で独自に計画した防災訓練を行っている。	年1回消防署立会いの総合避難訓練を実施する他、年間計画により毎月、夜間想定・風水害・地震対策・緊急連絡・不審者対策等の訓練や消防設備の自主点検を計画的に実施している。また、備蓄を食料廃棄月日調査表で管理している。利用者の各部屋の入口に防災頭巾と避難確認のリースを下げ、利用者の安全・安心に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを守り損ねない様、気を配り言葉かけに対応しています。	利用者一人一人の尊厳とプライバシーを守るため、毎月職員会議で話し合いを行い、不適切ケアやスピーチロックについての研修を重ねながら、職員間でお互い注意しあえる関係を築いている。また、ケース記録は鍵のかかるロッカーに保存し、書類等は金庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を自己決定出来るよう声かけしながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせてではなく、一人ひとりのペースに合わせて、本人を見守りながら本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性・希望・生活歴等に応じ希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事は暮らし全体の中で重要な位置にあります。一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるよう支援をしています。	主食と汁物は手作りし、おかずはチルド食を利用している。毎月おたのしみメニューを実施し、好みをメニューに反映させている。利用者は、出来る範囲で茶碗ふきなどを行っている。また、庭の畑で利用者と共に、かぼちゃやスイカ、ネギ、大根等季節の野菜を栽培し収穫物を食材とする等、旬を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通して必要な食事・水分が摂れるよう支援している。利用者の好物、体調・運動量・体重の増減介助の方法を工夫しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ介助を行っている。一人一人に合わせて出来る人には行って頂き、後に確認し汚れなどある場合は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄習慣を把握し声かけや誘導を行っている。また自尊心を傷つけることが無いように注意している。	トイレが部屋にある環境を活かし、トイレでの自立排泄を基本とした支援をしている。利用者のしぐさや表情を見て声を掛け、時間誘導をしている。現在、オムツ使用者は夜間のみで、他は布パンツやリハビリパンツで過ごしている。誘導時も尊厳ある声掛けに心掛け、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、水分補給や軽い運動を促している。便秘の方は、主治医に連絡し指示を仰ぎ適切に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調や気分を伺い、状態に合わせて入浴剤をしようしたり、会話を楽しんだり入浴して頂いている。入浴時は好きなように、ゆっくり入浴して頂いている。	入浴は週2回とし、日中に支援している。お湯は、一人一人入れ替え、季節の菖蒲湯やゆず湯などで楽しんでいる。入浴を拒む人へは、時間帯をずらしたり、職員を変えて声掛けするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や消灯の目安の時間はあるが、好きな時間に安心して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の内容を確認、把握しながら飲み忘れや誤薬を防ぐため、その都度二人体制にて確認を行いながら支援に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った出来る役割を持っていただき、下膳・洗濯たたみなど楽しんで行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と外気浴や散歩等、ケアプランや体調に合わせて行っているが、現況まだコロナ禍の為ドライブや外出は控えている。	コロナ禍のため買い物や外食は自粛しているが、法人のバスを利用して、花見・紅葉狩り・田んぼアートなど地域の名勝地へ出かけ車窓から見物してもらっている。また、庭のベンチに腰掛けて季節感を味わったり、気分転換をしてもらうため、季節の花を植えるなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、買い物などの外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、家族様へ入居者様の様子を手紙でお知らせしている。入居者様の希望により電話や手紙など家族様、知人と連絡出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や緑を飾り、季節の行事の物を飾っている。入居者様が居心地良く生活出来るようにしている。	リビングや廊下に、利用者と共に作成した季節の貼り絵や行事ごとの写真を掲示し、テレビの前にソファを配置して、居心地良く過ごせるよう配慮している。室内の温湿度の管理の他、空気清浄機を設置し、非常口の上部を常時明けて換気に努めコロナ感染予防対策にも務めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士、席を配置し会話が弾むようにしている。意見や思いを聞き、過ごしやすい場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様の馴染みのある物を持参して頂き、安心して過ごせる環境づくりをしている。プライバシーには配慮している。	入居時、寝具や衣類、テレビ、衣装ケースなど馴染みの物を持ってきてもらい、利用者・家族と一緒に居心地良く暮らせる部屋となるよう整えている。また、愛用のぬいぐるみや仏壇などを持参している人もおり、安心できるその人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体状況に応じ、居室に手摺等、設置している。出来る事は安全に出来るように支援を行っている。		